

似島ホタルの里通信

vol.13



竹林のヒメボタル

も く じ

ホタル池の歴史の振り返り
平成30年度二ノシマボタルを育てる里人の会年間活動
平成30年7月豪雨を振り返って、似島の家庭の味
ホタルで一句、寄せ書き、似島に咲く花
にのしまっぴ

2~3
4~5
6
7
8

発行：平成31年3月31日
発行者：南区魅力発見委員会
(二ノシマボタルを育てる里人の会)

表紙写真 撮影者：向江菊枝 撮影場所：似島ホタル池竹林
撮影日時：2018/6/7 21:27-22:19 バルブ撮影
カメラ：Pentax K-1 レンズ：50mm F1.4 F1.4/52min
ISO:1600 WB：オート 三脚、レリース使用

〒734-8522 広島市南区皆実町一丁目5番44号
南区役所市民部地域起こし推進課
電話(082)250-8935 FAX(082)252-7179
E-mail mi-chiiki@city.hiroshima.lg.jp

平成最後のホタル通信!

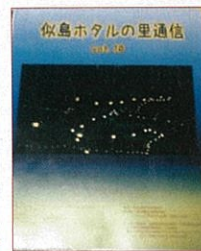
ニノシマボタルを育てる里人の歴史特集!

似島に生息するホタルを
ニノシマボタルと呼んでいます。
ヘイケボタル(ニノシマヘイケボタル)と
ヒメボタル(ニノシマヒメボタル)の
二種類がいるよ。

ニノシマボタルを守りたい!
私たちは【ホタルを持ち出さない、
持ち込まない】を合言葉に、ホタルが
自然に命をつないでいけるような
環境作りに取り組んでいます。



あなたもいっしょにニノシマボタルのすむ環境作りを楽しみませんか。
普段の活動は、草刈りなどの地味な作業が主なのですが(^_^)



平成	ホタル池・里人の会 の 歴 史 年 表	ホタルの数
13	地元からホタル保護の声が上がる。	
14	現地調査により ヘイケボタル の生息を確認。	
15	全島の水系を調査し、ホタルの生息域を確認。	
16	ニノシマボタルを育てる里人の会発足。 ヘイケボタル のための環境整備を開始。	20匹
17	NHK等のメディアで取り上げられ話題となる。案内看板やベンチ設置。	300匹
18	似島少年自然の家などの協力を得て、夜間の観察が10日間実施できた。ホタルの飛翔数は観察開始の5/28に10匹。ピークの6/4に120匹。	120匹
19	ホタルの数が減少。雑草が根を張り、ホタル池の水が乾きがちとなった。	50匹
20	更にホタルの数が減少。ホタルがすみ易い池となるよう、ホタル池の雑草の根切り(田起し)開始。21年3月には広島ホタル人サミット実施。	20匹
21	ホタルは池の上でなく竹藪に多く発生。 ヒメボタル の存在を疑い始める。	300匹
22	ヘイケボタル のほか、 ヒメボタル もいることが判明。空いたスペースで畑作開始、夏野菜を育てる。秋には、ホタルかご製作用の麦の種をまく。	ヒ120匹 ヘ30匹
23	竹製のといを設置してホタル池に常時沢水が流入するようになった。畑の麦わらでホタルかごを作った。休耕田であるホタル池に古代米を植えた。	ヒ500 ヘ30
24	ホタル池に水稻を植える田植え体験を本格スタート。この年から観察会を2回実施。(ヒメボタル の観察(宿泊)・ ヘイケボタル の観察(日帰り))	ヒ1200 ヘ100
25	ホタルかご用の麦は鳥害のため全滅。ホタル池の半面に稲を植えた。 ヒメボタル は雨天のためか少数だった。観察会での「にのしまランチ」スタート。	ヒ10 ヘ100
26	ホタル池の看板(案内板)、リニューアル。日帰りで実施していた ヘイケボタル の観察会は、船のダイヤの変更に伴い、集会所に宿泊して行うことになった。	ヒ700 ヘ70
27	ホタル池以外に山水がたまる場所にも ヘイケボタル の幼虫が育っていた。似島地域おこし協力隊が活動に加わる。	ヒ50 ヘ70
28	豪雨で自然の家～ホタル池への道が一時通行不能に。ビオトープとして利用中の水路が砂で埋まった。似島でのイノシシの被害が大きくなってきた。	ヒ20 ヘ30
29	ヒメボタル の観察会(宿泊)の他、日帰りで ヘイケボタル ミステリーツアー(観察会)を開催。応募者が殺到し、ホタルへの関心の高さがうかがわれた。	ヒ90 ヘ80
30	災害前に実施した観察会では近年で最多の ヘイケボタル 出現。7月豪雨で ヒメボタル の発生場所の沢の上部の山が一部崩れた。ホタル池への土砂流入は少量。	ヒ100 ヘ150

ヒ=ヒメボタル
ヘ=ヘイケボタル
を指します。



ぼくはいちばん最初から
参加しとるけど、竹がも
のすごく多くてたいへん
じゃったね。みんなで頑
張って竹を切り今のホタ
ルの里の姿にしたんだよ。

ホタルの観察会
に合わせて、
色々なこと
やったね～



そだね 2

麦茶作り	竹筒ご飯	野外調理&カレー&BBQ
雅楽の観賞会	そうめん流し	バウムクーヘン作り
昆虫・植物観察	天体観測	海辺の観察
タコ作り	勾玉作り	ホタルかご作り
		ホタルクイズ

初期の活動

～平成16年8月「南区だより」の記事より～

南区でホタルが確認されているのは似島だけ。わずかに生息している似島のヘイケボタルを「まぼろしのニノシマボタル」と名付け市民スタッフと地元の方々と、休耕田を活用し「ホタルの里」を目指して保護することになった。

この取り組みを通じ、ホタル以外の生き物や自然環境についても考えていくことに決まった。

4/25、5/30 ホタルの学習会・現地調査。

似島中学生徒たちが休耕田の現状をまとめた。

6/27 現状を踏まえ、ホタルがすめる環境作りについて、具体的な意見を出し合った。

9月から本格的に整備開始!

- ①池全体をでこぼこの湿地にする
- ②ホタルのえさとなる巻貝の飼育と放流
- ③周辺の草刈り
- ④倒木の整理

その他、案内板設置、観察スペースの確保、整備…などを行っていくことが、参加者の話し合いで決められた。

「似島にもホタルがおったんよ。最近見んようになったが、どうにかできんかいのお。」という気楽な声に押されて、現地調査に行く羽目になったのが平成14年7月のこと。翌年度の調査を元に昆虫館の坂本さんと協議し、似島に生息しているホタルを似島固有のものとして、①よそから持ち込まず活動していくことを柱としたんない、②細々とでも環境整備からはじめる、ことを原則としよ。それ以来、里人の方々とホタル池整備などに取り組むことになってね。観察会では、多いときもあれば少ないときもあり。気ままなホタルに付き合うのも粋といえるかな。



似島の方が「ホタルが減ってきたよ」って、南区役所に電話で相談して、調べてみたらヘイケボタルがいたことから、里人の会の歴史が始まったんだって! ヒメボタルがみつかったのはあとからなんだね。



昭和40年頃まで、
今はホタル池になつとる場所でお米を育てとったんよ。
親父の手伝いをしとったよ。



みんなで意見を出し合い、ホタルの天敵のヤゴやクモも多くいるけれど、天敵も含めて色々な生物がバランスよくいた方がいいという意見にまとまりました。

ヤゴ

ヒキガエル

タイコウチ

ケラ

平成16年の活動開始後、
いったん増えたヘイケボタルだったが、平成20年ごろ、整備の苦勞も空しく観察会の日にホタル池の上を飛ぶホタルが激減。時には0匹だったが…

竹やぶの中で光る無数のヒメボタルの存在に気づききっかけともなった。



ホタル池の土を掘り返す作業(田起し) & 田植え体験



ホタル池に、雑草の根がびっしりはびこり、ホタルの幼虫の育つたまりが無くなってきたので、平成20年から雑草の根を切り土を掘り返す作業をすることにした。平成23年には田起しをして稲を植え休耕田を復活させた。
(※イノシシ被害の増加、農薬等の混入の懸念などから平成29年以降お米作りは休止)

平成22年頃まで、授業の一環として、似島中学校の生徒さんの参加がありました。

現在、学校制度の変化(週休二日制の導入など)で日程が合わなくなり休止中です。

平成23年より、ホタル池に沢水を引き入れる竹といを設置。ホタル池が干上がる心配が無くなりました。



水路も素敵なビオトープに。

ニノシマボタルは「本土から持ち込まれたヘイケボタル個体群の末裔」と考えています。人が入植する以前、島はコジイやヤブニッケイなどの照葉樹に鬱蒼と覆われていたはず。そんな環境下にヘイケボタルがすむ開放的な湿地が存在していたとは思えません。江戸期以前、島で水耕栽培が営まれ始めた頃、妻や子を喜ばすため、あるいは自らの寂しさを紛らわそうと農家の主が持ち込んだのでは…。そう想うと、愛おしさが募ります。だからこそ、「持ち出させない・持ち込ませない」を貫き、過去を今に、そして今後の保全を願います。



平成25年から観察会の定番となっています。にのしまランチ。



メバルそうめんとタコ飯



平成30年度 ニノシマボタルを育てる里人の会年間活動

4月22日(日) 環境整備

ホタル池への竹樋のリニューアルや畑の草取りなどで
今年度の活動開始！

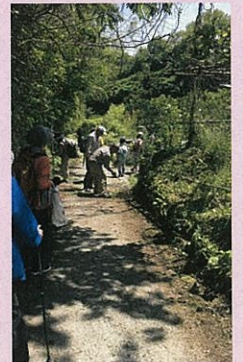
ホタルの栄養源：サカマキガイも発見♡



5月12日(土) 環境整備

ホタル池への通路を整備するなど、ホタル観察会の準備
をしました。

米作りは休止しますが、田んぼの
環境を守るため、田起こしをしました。



5月26日(土)～27日(日) ヒメボタル観察会

ホタル周辺の自然観察(植物・昆虫)や海辺の生物観察
を楽しみました。

似島バウムクーヘン 100周年を記念して、

「食べるバウム」はもとより、初めて

「飾るバウム」を作りました。

ヒメボタルをカシャ 最高です♡



6月23日(土) ヘイケボタル観察会

特別チャーター便でホタルに会いに行きました。

平成24年にヘイケボタルの観察を始めて7年目。

150匹♡

一番多く飛んだ年になりました。

7月より6月半ばによく飛ぶのかな？



7月6日(金) 西日本豪雨は、中国地方に大きな被害をもたらし、似島も被災しました。

7月15日(日) 活動は中止し、各自で災害ボランティアに加わりました。

9月29日(土) 台風の影響で活動を中止しました。

10月20日(日) 環境整備

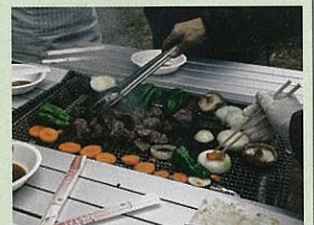
台風で被害を受けた竹樋や
水路をきれいになりました。



11月18日(日) 環境整備&収穫祭

今年はお米作りをしませんでしたので収穫ゼロですが、
恒例の収穫祭(バーベキュー)で楽しみました♡

麦の種まきをしました。



12月15日(土) 環境整備&忘年会

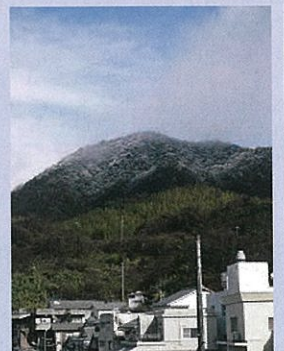
新しいベンチを設置しました。座り心地抜群です♡

麦も育っていました。



1月26日(土) ホタル通信編集会議&新年会

寒波到来!! 朝から広島市内は雪で、似島の安芸小富士・
下高山も雪化粧でした。ホタル池の整備は中止し、
似島公民館で、ホタル通信の
編集会議後、温かい鍋料理で
新年会をしました。



★ ヒメボタル観察会 平成30年5月26日(土)～27(日)

1日目

9:20 広島港発

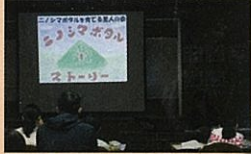
10:50 ホタル池周辺自然観察(やのみ一探検隊の勢良隊長)



13:30 海辺の生物観察(ひろしま生きた自然博物館の畑さん)



19:00 ホタルの勉強会(里人の会新枝さん)



麦わらで本格的なホタルかご作り

21:00 ホタル観察



飛翔数 100 匹

2日目

10:00「食べるバウムクーヘン」と

「飾るバウムクーヘン」づくり



みんなで作ったバウムクーヘンで「もぐもぐタイム」

12:00 ランチタイム(似島名物)
メバルのそうめんとたこめし



13:00 反省会



バイバイ また来年ね～

15:10 広島港着

★ ヘイケボタル観察会 平成30年6月23日(土)

19:10 広島市営棧橋から似島へ出発♥

19:25 似島学園棧橋着

19:50 似島臨海少年自然の家着

オリエンテーション後、いざホタル池へ

20:15～21:15 ホタル観察



チャーター便で



ホタルかごに入ったかな?



うちわに乗ってくれたヘイケボタル

21:30 似島臨海少年自然の家発

21:50 似島学園棧橋発

22:10 広島市営棧橋着

飛翔数 150 匹



観察会に参加して記念缶バッチ Get!



平成30年7月豪雨（西日本豪雨災害）を振り返って ～復興への希望の光～

文責 似島地域おこし協力隊 船谷 季弘

平成30年6月28日、日本に上陸した台風7号と梅雨前線の影響により記録的な大雨となり、西日本を中心に、北海道から沖縄まで38都道府県で被害が発生。特に、広島県・岡山県では、様々な被災や犠牲になられた方も多数にのぼり、激甚災害または同時多発災害などの表現をされていますが、現在においても、その凄惨な状況を表す言葉を私は持ちえていません。

我が似島も例外ではなく、7月6日から7月7日の末明にかけ、島全体に降り続いた集中豪雨により、その地質のほとんどを風化花崗岩で形成された風光明媚な二つの山を、いとも簡単に豹変させました。その結果、多くのがけ崩れが発生し、谷間をえぐり土石流となり、宅地や道路を飲み込んだり、墓所や水路を決壊させたりと、住民の生活と心、加えて美しい自然環境に多大なダメージを与えました。

そのような中でも、幸いにして人的被害は無く、ライフラインの被害も免れた地域住民は、まだ降りしきる雨の中、翌朝からすぐに老若男女総出の復旧作業にあたりました。まずは、二次災害の予防や生活道路の復旧と後方支援、具体的には、島内の被害状況の把握（この時、私自身島内をくまなく見回りホタル池の惨状に心を痛めました）、似島災害対策本部の設置（南区災害対策本部との連携）、ボランティアの要請及びボランティアセンターの設置（南区社会福祉協議会との連携）などです。

当初は、「何とかしなくては」という興奮の中で、各自一生懸命作業にあたっていました。少子高齢化による人手不足と車も入れない狭く入り組んだ道での果てしない作業によって、次第に体力と精神力が消耗してきました。そんな我々のもとに、全国からの温かい御支援や励ましの声が寄せられ、同時に、多くのボランティアさんが連日集まり、無償の作業を島民と共にやり復旧を目指しました。感謝。

酷暑の中の作業は困難を極めました。ボランティアさんたちがもたらしたのは労働力だけではなく、人々との繋がりや優しさといった「まごころ」もいただきました。

おかげさまで現在は、ほぼ通常の生活を取り戻すほどに復旧は進みました。その上、全国の支援者やボランティア参加者との心温まる絆という副産物を得ることができ、さらなる復興に向けて島民も島外の協力者も一丸となって様々な活動をしています。自然環境の再整備もその一つです。

その中でも、私は「二ノシマボタル」の無事を願って止みません。

その光は我々への力強いエール。今年も蛍たちが淡く美しくまたたき、「似島の自然は大丈夫だよ」、「これからも頑張れよ」と、これからも私たちにその強さを示し勇気を与えてほしい。似島災害復興への希望の光をともし続けてほしい。そう願っています。



災害現場の様子(一部)



たくさんのボランティアさんが入島



真夏の復旧作業の様子



大量の支援物資の到着

似島の家庭の味～きりだしうどん～

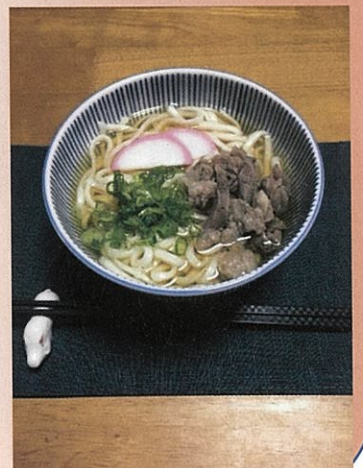
似島では、牛すじ肉のことを「きりだし」と言います。昔から、きりだしを使って作るうどんが好んで食べられてきました。

現在では、島に1軒もなくなってしまったお好み焼き屋さんでも、このうどんが提供されていたほど、とても人気でした。

材料や調味料は同じでも、作り方は、各家庭によって様々です。今回掲載しているきりだしうどんの作り方を、参考として紹介します。

作り方(例)

- 1 きりだしを小さく切り、一度茹でこぼし、柔らかくなるまで煮る。
- 2 取り出したきりだしを、酒・醤油・みりんなどで味付けする。
- 3 きりだしを煮た煮汁と、お好みのだし汁（かつおや煮干など）と合わせ、酒・醤油・塩で味付けする。
- 4 うどんの麺を温め、きりだし肉・かまぼこ・ねぎなどをのせ、うどんだしをかける。





にのしまつぷ

サイクリングロード⇒

1周約10km 自転車約1時間!

似島 汽船

広島方面-To Hiroshima-

似島発	学園着発	広島着
From	Gakuen	Hiroshima
Ninoshima	Arrival	Arrival
6:00	→	6:20
7:00	→	7:20
8:00	→	8:20
9:00	→	9:20
10:15	→	10:35
11:30	→	11:50
13:00※	13:20	13:40
14:30※	14:50	15:10
16:00	→	16:20
17:00	→	17:20
18:00	→	18:20
19:00	→	19:20
20:00	→	20:20



似島 汽船

インフォメーション



ウエルカム似島

- ◆ レンタル自転車
- ◆ レンタル釣具
- ◆ レンタル牡蠣焼き機
- ◆ パウムクーヘン 手作り体験
- ◆ FREE Wi-Fi

長浜 軍用連絡トンネル



軍の特攻隊兵舎と、長浜の燃料貯蔵施設を結んだ軍用連絡トンネル。今は坂を登らなくて良い近道として、お年寄りに利用されている。

安芸小富士



広島市の街地を見渡すことができます。早い人は40分で登れます。



検疫所感染物の焼却炉跡 (赤レンガの煙突)

後藤新平の像

似島学園 小・中

旧歩哨所

学園前棧橋

旧通用門跡

弾薬庫へのトンネル

似島汽船

バンカーサブリ



堀口海産 (牡蠣)

住田水産 (牡蠣)

旧軍用棧橋 (第1~第3)

谷口水産 (牡蠣)

沖野食料品店 (日曜もやってる!)

陸軍馬匹検疫所跡

似島小

似島中

原爆慰霊碑

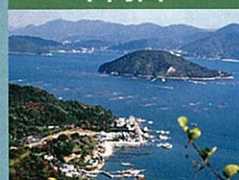
続木水産 (牡蠣)

慰霊の広場

下高山

標高 203m

下高山



下高山は瀬戸内海の多島美を見ることができるスポットです。安芸小富士の帰りに登るのがおすすめです!

会員募集中

「ニノシマボタルを育てる里人の会」

“持ち出さない、持ち込まない”を活動のモットーに、似島に生息するホタルの育つ環境整備をしています。会費は不要です。ただし、交通費等の実費は自己負担となります。

《お申込み・お問い合わせ先》

〒734-8522 広島市南区皆実町一丁目5-44

広島市南区役所市民部地域起こし推進課

「ニノシマボタルを育てる里人の会」事務局

電話 (082) 250-8935

FAX (082) 252-7179

E-mail: mi-chiiki@city.hiroshima.lg.jp

